様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	教員養成特別コース／木下光二

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

学部4年間で身につけた力より，更に実践力や授業力を高めるのが本コースの使命である。これまでの経緯から，学部4年間での学びを通して，教材研究や指導案作成等においては確かにある程度の力をつけてきていることを感じている。しかし，実際に学校現場で授業を実施するにあたり，指導案通りに授業を進めようとするため，授業における児童理解や子どもの思考過程を十分に把握できず，教師サイドの一方通行になっていることがよく見られる。そこで，授業が子どもサイドのものとなるよう，①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点において，以下のような授業実践の展開を図ることとしたい。

①子どもにとって必然性のある授業内容となる教材研究や指導案作成に配慮した授業内容を構成する。
②学生一人一人の個性や実践力を生かした授業となるよう，講義形式ではなく，模擬授業や演習を中心とする授業形態をとる。
③模擬授業や演習等における学生の取り組みを，より客観的に評価するため，多くの場面でVTR録画を行ったり，ワークシートを活用して振り返りを行ったりするなどの工夫を行う。

2．点検・評価

記述した③点の取組について前期に実践をおこなった。後期が始まり，大学院1年次生は附属小中学校，2年次生は鳴門市内のインターンシップ実習において各自熱心に授業実践に取り組むことができた。
担当していたゼミ生は1年次生が3名，2年次生が2名であったが，それぞれ，長期のインターンシップと平行して行われた，ゼミでの授業立案や授業の振り返り，プロトコル分析等を通して，実践力も身につけることができたと考えている。特に2年次生においては，2名ともに採用試験に合格し，2月に実施された教職大学院成果発表会において2年間の取り組みを発表した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学生の相談への対応がスムーズに行えるように，emailを活用する。
②講義時間内に限らず，学生の質問や相談にいつでも気軽に応じることができるように努める。
③学生が主体的に授業に参加できるよう，討論，模擬授業を取り入れる。

2．点検・評価

記述した内容に加え，今年度は，学校教育実践コースと教員養成特別コースにおいて合同でのゼミを行い，授業実践や学級経営，生徒指導等の理解を促すように努めた。学生との距離感は，縮まっているように感じている。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①学校教育におけるカリキュラム開発や授業開発に関する研究を積極的に行う。
②小学校教育の授業理論と実践に関する研究を進め，研究会や学会等に参加する。
③幼稚園と小学校の合同活動や接続カリキュラムを開発するための研究を行う。

2．点検・評価

文部科学省の研究開発である「幼小接続期における教育課程の作成」について，本学附属幼稚園及び附属小学校との合同研究を継続的に実施した。研究の成果は，平成25年附属幼稚園研究発表会，附属小学校研究発表会において広く公表した。幼児教育においては，接続期の教育課程作成が，今後の小学校教育の教育課程のモデルとなることが期待されているが，附属幼稚園研究での成果を26年1月に，文部科学省において発表した。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

部会議，専攻会議等での運営に参画し，その任務内容を推進する。

2．点検・評価

コース長としての職務は3年連続となり，部会議，専攻会議等の運営等で責務を果たした。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①附属校園の研究活動に積極的に参画し，日常の教育活動から学ぶとともに，研究授業や研究大会に積極的に参加する。
②県内外の教育研修，教育事業の企画，運営，実施等を進んで行う。
③鳴門市の小学校を中心とした教育支援活動を積極的に行う。

2．点検・評価

前述したように，附属校園と合同で研究に取り組んでいる一方，今年度から本コース1年次生のインターンシップ実習を附属校で実施していることもあり，より一層の連携を図って教育活動に取り組んでいるところである。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

3年間継続しての教職大学院教員養成特別コースのコース長を努め，本年度は特に，中学校教員養成コースを開始，附属小中学校においてインターンシップ実習を開始するなど，本コース，教職大学院，ひいては，本学の発展のために寄与している考えている。また，県内外での講演活動や文部科学省における講師等も務めることで，本学に貢献していると考えている。